

たっちだより 第10号

訪問看護ステーション・タッチはお蔭様で開設 10 年目になります。
その間、多くの利用者様・ご家族と出会いました。

- ✚ 懸命にリハビリに取り組む〇さん
- ✚ 保清ケアの後晴れやかな表情の〇さん
- ✚ 認知症の介護に葛藤する家族
- ✚ 臨終の床で家族に感謝の言葉を伝える〇さん
- ✚ 看取りを終え充実感に満ちた表情の家族



共に泣き・笑い・思いを共有する中で人の強さや温かさに何度も心を打たれました。一つ一つの出会いやケアの積み重ねがタッチの成長につながっています。皆様との出会いを糧にこれからも笑顔と元気をバッグにつめて訪問していきたいと思えます。

家族の声

～お母様の介護をされている息子さんより～

母が脳梗塞の後遺症で寝たきりとなり自宅での介護生活も 7 年が過ぎました。在宅介護が始まった当初は、経管栄養や褥瘡、嚥下の管理等、それは今まで見た事も聞いた事もない初めての経験であり、何をしたらいいのか、これからどうなっていくのか、分からずに何やら重苦しく不安感でいっぱいでした。

そんな時に些細なことでも嫌な顔ひとつ見せず耳を傾けてくれた訪問看護師、そしてその爽やかな笑顔にくじけそうな心が何度も救われました。

訪問看護での顔や口のアイスマッサージや発音練習等により、現在では子供の頃に習ったことわざ・俳句・四文字熟語・しりとり等ができるまでに回復し、介護者としてこの上ない幸せと安らぎを感じております。

最近、介護者が身体的な疲労や精神的ストレスが重なり倒れてしまった等、決して他人事ではない悲しい出来事が増えていますが看護ステーションのスタッフの皆様の『人としての暖かさ』に触れるたびに、私のタッチを選択したことの巡り合わせに心から感謝しております。

これからもスタッフ皆様の『やさしい笑顔』と『元気の素』をいっぱい頂けますようお願いいたします。



訪問看護実習を終えて



～医師会看護学生より～



訪問看護ステーション・タッチのスタッフの皆さんと同行させて頂き、利用者様・家族とのコミュニケーションの方法や個別性のある看護を改めて考えることができました。

明るく笑顔の多いステーションで優しく指導して頂くことができ、学びの多い実習となりました。この学びを実習や臨床の場で活かしていきたいと思います。2週間ありがとうございました。

利用者さんや家族と関わる看護師さんの姿をみて、本来の看護のあり方を感じました。病院で勤務していると一人の患者さんと十分時間を持ち関わる事ができず、相手の思いを知った上での看護へ繋げることは困難であるという思いがありました。しかし、今回のタッチでの実習で、利用者さんや家族と真正面から向き合う看護師さんの姿、そのことによって見えた利用者さん・家族の笑顔がとても印象的でした。そして、人間対人間の向き合う看護が訪問にはあると学びました。

訪問させて頂いた利用者さん、家族の方々、スタッフの皆さんの協力のもと在宅実習で多くのことを学ばせて頂き本当に感謝しています。この学びを忘れず、タッチの皆さんのような看護師、人間になれるよう頑張っていきたいと思います。



～スタッフ紹介～

タッチにリハビリスタッフが加わりました！



訪問リハを担当しています、理学療法士の岡田です。

精一杯ガンバリますので応援して下さい。

ご自宅で安心した療養生活を送る為に不安や心配事がありましたら遠慮なくケアマネージャーまたは、訪問看護ステーション・タッチに相談して下さい。

TEL : 048-646-4701

メール : touch@nishiohmiya-hp.com

